

## 教職員自己紹介

---

林 政喜 (はやし まさき)

実習助手

1984 年生まれ、福岡県直方市出身、2007 年九州産業大学情報科学部知能情報学科卒業。2008 年九州産業大学大学院情報科学研究科情報科学専攻修士修了。現在は九州産業大学大学院情報科学研究科博士後期課程在籍。



研究テーマは交通事故防止についてです。日本での交通事故発生件数は 2007 年度で 83 万件です。交通事故の殆どは衝突による物です。衝突事故を防止する為には停止距離よりも車間距離を長くする事が重要なのですが多くの人ではできていません。それは本能的に先を急ぐ運転をしてしまい車間距離を詰めているからです。これは訓練・教育する事で矯正する事ができ、私はその訓練・教育システムの一部を作成しています。

印象的な実験は飲酒実験です。飲酒する前と後で運転者の反応時間・運転はどの様に变化するのか、という実験内容です。飲酒前は普通に運転する事ができていました。しかし飲酒後はふらついた運転になり速度が異常に高い車、また道路から飛び出し壁に衝突寸前の車がでてきました。後部座席に乗る私にはとても恐怖を感じた実験でした。

講義は線形代数、情報回路実験、データ構造とアルゴリズムなどを担当しています。

神屋郁子 (かみや ゆうこ)

実習助手

九州産業大学情報科学部卒業後、九州産業大学大学院情報科学研究科博士前期課程に進学。大学院進学後はネットワークに関する勉強をしながら、広域負荷分散というテーマに辿り着きました。現在は九州産業大学大学院情報科学研究科博士後期課程に在学しております。



現在の研究テーマは「仮想計算機を用いた規模適応性に優れたサーバシステムの構築」です。インターネットは広く普及し、さまざまなサービスがインターネット上で普及しています。しかし、たくさんのリクエストがサーバにきた場合、処理能力が不足してサーバがダウンしたり、ネットワーク帯域が足りなくなりサービスが提供できないことがあります。そこで、私の研究では、このような処理能力不足やネットワーク帯域不足をなくすため、仮想計算機技術を用いてサーバを広域に増やすシステムを開発しています。今後、このシステムが広く使われるようになるのが私の夢です。

2008 年度は「情報リテラシー」「情報リテラシー演習」「ソフトウェア演習ⅡA」「情報科学基礎実験」「データ構造とアルゴリズムⅠ」「ソフトウェア演習Ⅰ」「プログラミング基礎」「離散数学ⅣA」「離散数学ⅣB」「データ構造とアルゴリズムⅡ」の講義の実習助手をしています。得意な科目も不得意な科目もありますが、学部生の皆さんに理解してもらえるように努力していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

## 教職員自己紹介

---

宗田修一 (むねた しゅういち)

実験助手

1981年生まれ、福岡県北九州出身。2004年九州大学理学部数学科卒業、2006年同大学院数理学府修士課程修了(数理学専攻)。現在、同専攻博士後期課程在籍。



高校のときに数学の理路整然としたところにおもしろさを感じる

ようになり、大学で数学科に進学しました。大学に進学してからは数論という分野に興味を持つようになったのですが、そのきっかけはフェルマーの最終定理と呼ばれる問題を知ったことです。問題自体は非常に簡単なのですが、証明は20世紀の数学の理論を総動員するといった、とても壮大なものです(難しい論文で残念ながら理解できません)。そういった数論の奥深さを感じ、専門分野を数論に決めました。

現在は数論の中でも、特に多重ゼータ値と呼ばれるものを研究しています。多重ゼータ値というのは古くは17世紀ころに登場したバーゼル問題と呼ばれるものに端を発します。このバーゼル問題はある規則的な有理数を無限個足したものが円周率で書けるという非常に神秘的な問題です。多重ゼータ値でも類似のことに興味を持って、研究しています。研究はなかなか進展しないのですが(数学にはよくあることのように)、少しでも前進できるように日々研究をしています。